第50回

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

全国(仙台)大会及び研修会

【大会テーマ】

広がる市町村アーカイブズの多様なカタチ

期 日　　令和6年11月21日(木) ・11月22日(金)

会 場　　トークネットホール仙台（仙台市民会館）
　　小ホール・展示室

開催方法　対面のみ（後日配信あり）

主 催　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）
共 催　仙台市
後 援　国立公文書館/宮城県/仙台市教育委員会/東北大学史料館/東北大学災害科学国際研究所/歴史文化資料保全ネットワーク事業・東北大学拠点/khb 東日本放送/tbc 東北放送/ミヤギテレビ/河北新報/仙台放送/NHK仙台放送局

開 催 要 項

1 期 日　令和6年11月21日（木）・11月22日（金）

2 主 催　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）

3 共 催　仙台市

4 後 援　国立公文書館/宮城県/仙台市教育委員会/東北大学史料館/東北大学災害科学国際研究所/歴史文化資料保全ネットワーク事業・東北大学拠点/khb 東日本放送/tbc 東北放送/ミヤギテレビ/河北新報/仙台放送／NHK仙台放送局

5 会 場

大会会場

トークネットホール仙台　宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘公園4−1　TEL.022-262-4721

研修会A（施設視察）会場

・仙台市公文書館　宮城県仙台市青葉区貝ヶ森5-6-1　TEL022-303-6074
・宮城県公文書館　宮城県仙台市泉区紫山一丁目1番1号　宮城県図書館2階西側　TEL022-341-3231
・仙台市博物館　宮城県仙台市青葉区川内26番地　TEL022-225-3074
・東北大学史料館　宮城県仙台市青葉区片平2-1-1　東北大学片平キャンパス内　TEL022-217-5040

交流会会場

TKP ガーデンシティ仙台　宮城県仙台市青葉区中央1-3-1　TEL022-204-1036

6 内 容
（1）各種研修会（施設視察を含む）
（2）50回大会記念座談会
（3）令和6年能登半島地震について
（4）大会テーマ研究会
（5）機関会員・協賛企業展示、ポスターセッション
（6）交流会

7 申込方法

「参加申込方法」（p13・p14）をご覧いただき、全史料協ウェブサイトのオンライン申込みフォームを利用してお申込みください。オンライン申込みができない場合は、別紙「申込書」にご記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール、FAX 又は郵送にて、お申込みください。

8 大会参加費　会員（機関会員・個人会員）　**無 料**
非会員　**￥1,000**

9 大会資料　　例年、冊子にしました大会資料を参加者に配布しておりましたが、今大会はペーパーレスの観点から、全史料協ウェブサイトに PDF データとして掲載し、参加者の方々にダウンロードいただく形式にいたします。ご了承いただきますようお願い申し上げます。

10 交流会費　　会員・非会員にかかわらず、ひとり**¥6,600**
（参加は任意ですが、参加される方は、必ず申込フォームまたは申込用紙にて
お申込みください。）

11 運営ボランティアの募集

今大会に参加される方から、会場準備および片付け・受付・壇上の設営・弁当の配布および回収・アンケートの回収などの運営面の業務を手伝っていただけるボランティアを**5名程度**募集します。開会前や各報告の合間、昼休憩時や閉会後の時間を中心に、できる範囲でご協力いただける場合は、申込フォームまたは申込用紙にてお気軽にご回答ください。

※お申込みいただいた方は、ご協力いただく内容につきまして御連絡いたします。また、リモートで行います事前打合せにもご参加いただき、大会の流れや作業内容などを把握していただきます。

12 大会会場周辺では飲食店が少ないようですので、開催期間の両日（11月21日・11月22日)ともに、事前申込にて弁当（お茶付き **¥1,500**）を会場でお渡しいたします。必要な方は、申込フォームまたは申込用紙にてご回答ください。

※会場内の展示室にて昼食をとっていただけます。

※11月21日(木)の午前中に仙台市公文書館・宮城県公文書館の施設見学に参加される方は、バス移動により、昼食時間の確保が難しくなる可能性がございますので、弁当の申込みをお薦めします。

13 その他

（1）会員相互の親睦を図るため、参加者名簿（氏名・所属［機関名又は都道府県名］）を作成します。申込時に名簿掲載の可・否をご記入ください。記入がない場合は掲載しないこととします。なお、名簿作成にあたっては個人情報の保護に十分配慮し、その用途を本大会に限定しますので、趣旨をご理解の上、掲載にご協力ください。

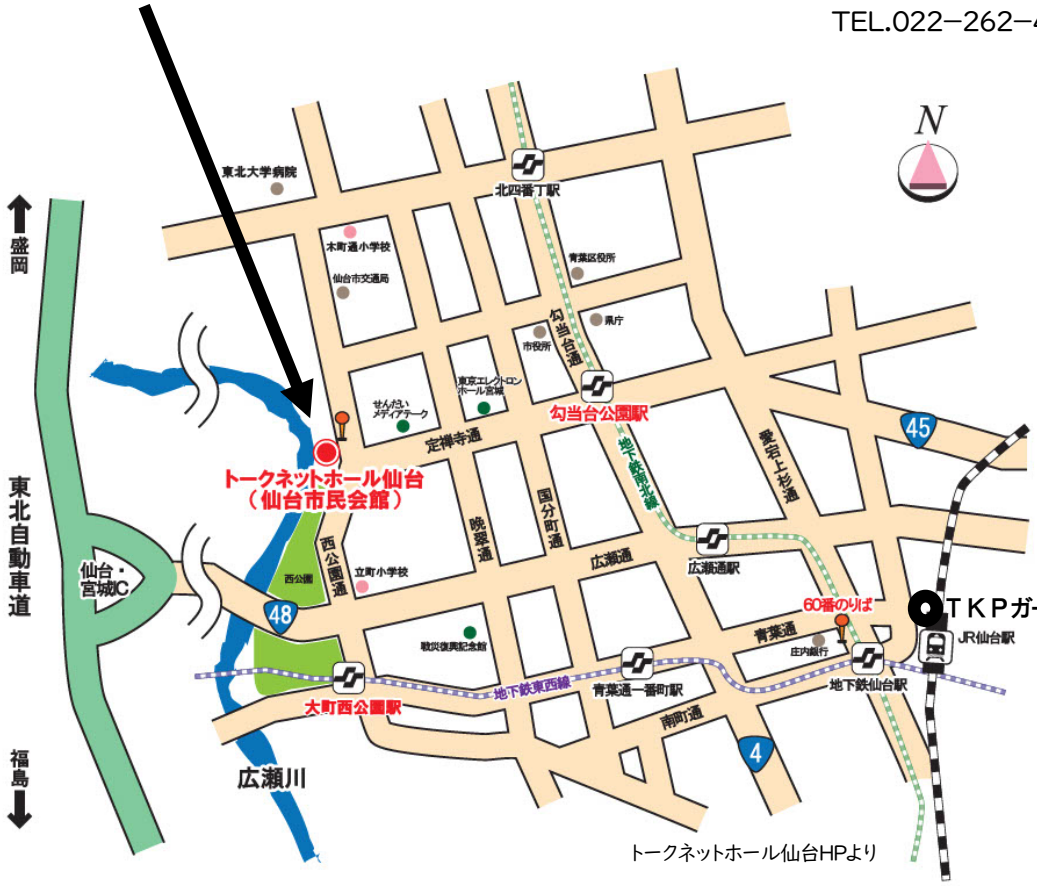
（2）手話通訳や車椅子対応等の特別な配慮を希望される方は、申込時に事務局への連絡欄にご記入ください。

大 会 会 場

【トークネットホール仙台】

〒980-0823 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘公園4−1

TEL.022−262−4721



トークネットホール仙台HPより

アクセス

地下鉄	① 地下鉄南北線「勾当台公園」駅下車「公園2」出口から、徒歩約10分 ② 地下鉄東西線「大町西公園」駅下車「西1」出口から、徒歩約10分
バ ス	仙台市営バス「定禅寺通市役所前経由 交通局東北大学病院前」行き （JR仙台駅前仙台TRビル前60番乗り場より、約15分） 「市民会館前」 下車すぐ
タクシー	JR 仙台駅より 約10分
高速道路	東北自動車道「仙台宮城 IC」より 約10分

大　会　日　程

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第50回全国（仙台）大会日程表

1日目

11月21日（木）

【研修会A】施設視察

9:00	① 仙台市公文書館 ↓ 宮城県公文書館 定員30名	② 宮城県公文書館 ↓ 仙台市公文書館 定員30名		
10:00			③ 東北大学史料館 定員30名	④ 仙台市博物館 定員50名
10:30				
11:00				
11:15				
11:30	大会受付 弁当配布（事前申込者のみ） ポスターセッションコアタイム① 企業展示開始			
13:00 13:15	開会行事			
	会場設営・参加者移動			
13:25	【研修会B（入門編）】	【研修会C（応用編・災害復興】		
14:25				
	会場設営・参加者移動			
14:35	【研修会D（公文書分野）】	【研修会E（地域資料分野）】		
15:35				
	会場設営・参加者移動			
15:45	【全史料協全国大会50回記念特別座談会】			
17:15				
	交流会参加者移動			
18:30	交流会 （TKPガーデンシティ仙台）			
20:30				

2日目

11月22日（金）

9:00	大会受付
9:30 10:20	【全史料協特別報告】 令和6年能登半島地震について
	会場設営
10:30 10:35	大会テーマ趣旨説明
11:10	大会テーマ基調報告
11:50	【大会テーマ研究会報告Ⅰ】
13:10	昼食休憩 弁当配布（事前申込者のみ） ポスターセッションコアタイム②
13:50	【大会テーマ研究会報告Ⅱ】
14:30	【大会テーマ研究会報告Ⅲ】
14:50	休憩・ポスターセッションコアタイム③
16:00	【総合討論】
16:15	閉会行事

１１月２１日（木）

■研修会A（A-1・A-2 は 9:00～11:15、A-3・A-4 は 10:00～11:00 ）

研修会 A として、仙台市内の各機関への見学を行います。参加希望の方は以下の 4 つの見学コースより選び、申し込んでください。各施設の都合上、定員が定められており、先着順となります。定員に達しましたら募集停止とし、全史料協ウェブサイトにその旨記載しますので、申込み前に必ずウェブサイトを御確認ください。対面開催ならではの研修内容ですので、どうぞ御参加ください。

A-1　仙台駅集合（8:30）→仙台市公文書館→宮城県公文書館【定員 30、貸切バス】

A-2　泉中央駅集合（8:30）→宮城県公文書館→仙台市公文書館【定員 30、貸切バス】

A-3　東北大学史料館（10:00 までに現地集合）【定員 30】

A-4　仙台市博物館（10:00までに現地集合）【定員 50】

※バスおよび会場の集合場所は、「大会資料」に詳細を掲載しますので、必ずご確認ください。

①仙台市公文書館

当館は、条例に基づく公の施設として、また、公文書館法に規定する公文書館として、閉校した小学校校舎を改修し令和5（2023）年7月3日に開館しました。主な業務内容は、歴史的公文書等について①保存や一般の利用へ供すること、②保存や利用に関する調査研究を行うこと、③普及活動を行うこと、の3点です。見学では、小学校校舎を改修した当館の特色や課題、仙台市政100年のあゆみに係る展示等について、ご覧いただきたいと思います。

②宮城県公文書館

平成13(2001)年に開館し、平成25(2013)年に宮城県図書館内に併設する形で移転、再開館しました。収蔵庫、閲覧室のほか、常設展示スペース「温故回廊」を備えており、当館の魅力を発信しています。また、年2回の企画展は宮城県庁舎及び宮城県図書館展示室で開催しています。

本研修では公文書館機能についての概説、収蔵庫見学、常設展「追憶のみやぎ　昭和の県庁を訪ねて」の見学を実施します。

③東北大学史料館

東北大学史料館は、東北大学の歴史に関する資料の保存・公開を目的とするアーカイブズです。昭和38（1963）年に設置された東北大学記念資料室をルーツとし、日本初の大学アーカイブズとして今年で開館から61年目をむかえます。当館は元々、大正元（1926）年に東北帝国大学附属図書館本館として建設された建物で、平成29（2017）年に登録有形文化財に登録されています。見学では展示室や書庫等をご覧頂きたいと思います。

④仙台市博物館

仙台市博物館は、昭和26（1951）年に仙台伊達家から寄贈された資料群の保管・展示・研究のために、仙台城三の丸跡に昭和36年に開館しました。昭和61年に現在の建物である新館が開館し、平成21（2009）年度に常設展示室の展示リニューアル、令和3～5年度に空調設備の更新・LED 照明の導入など設備面を中心とした大規模改修工事を実施しました。見学では、概要説明の後に常設展示室をご覧いただきます。

■会員（機関・個人）による刊行物等および研究成果のポスターの展示
協賛企業による商品展示および書籍販売

会場内におきまして、会員機関の刊行物やパンフレット、協賛企業の取扱品・図書・出版物等を展示します。また、機関会員の事業等の紹介展示や書籍販売、個人会員の研究等をまとめたポスター掲示も行います。

今大会ではひとつの会場にて実施いたしますので、企業展示・ポスターセッションを一度に巡ることができます。ぜひ、対面開催ならではの有意義な時間をお過ごしください。

〇企業展示および書籍販売時間

11月21日（木）　11:30 ～ 16:00　　11月22日（金）　9:00 ～ 15:00

ポスターセッションでは、コアタイムを設定します。コアタイムの時間帯には、ポスター展示者が発表形式で説明を行うとともに、参加者と自由な意見交換ができます。

〇ポスターセッションのコアタイム（全３回）

11月21日（木）　①11:30 ～ 13:00　　11月22日（金）　②11:50 ～ 13:10
③14:30 ～ 14:50

■大会開会式（ 13:00~13:15 ）

■研修会 B （アーカイブズ入門編　13:25~14:25 ）

「文書館入門　ー史料保存への足掛かり 地域史料は誰のものー」

福嶋 紀子氏（松本大学）

記録史料の保存施設である文書館は、今後町・村レベルでの設置の重要性が高まる。これまで全国における文書館の建設は、大規模自治体から始まり、徐々に広がりをみせているが、全国の自治体数と比較すれば、いまだ圧倒的に不足しているのが現状である。文化財行政への注力が困難とされる町・村のような小規模自治体でも、文書館の設置は実現できるのか。都道府県文書館と市町村文書館の役割分担の可能性を改めて考える時期ではなかろうか。被災史料のレスキュー活動後に、過疎化する村で宙に浮いてしまった史料群の保存の取り組みを通して、地域住民による史料保存への足掛かりを考える。

■研修会Ｃ（アーカイブズ応用編ならびに災害復興関係　13:25～14:25 ）

「宮城での史料レスキュー・21年の軌跡 ーー人の当事者が見た現状とこれからー」

佐藤　大介氏（東北大学災害科学国際研究所）

ここでは、今年で21年目を迎えた、宮城でのいわゆる「民間所在史料」の保全活動について成果と課題を確認し、今後について展望する。

平成15（2003）年7月の宮城県北部での地震を契機に、宮城歴史資料保全ネットワークが結成された。平成23（2011）年3月11日の東日本大震災やそれ以後の広域災害での被災対応、また個人所蔵者に対する「保全活動」を継続している。今年で21年目を迎えた組織は、持続性、活動への関心の低下などの課題に直面する。一方、東日本大震災以後の市民連携は、民間所在史料の所在把握、活用、さらには対人支援の可能性を示してもいる。これらの事例を通じて、今後の民間所在史料への向き合い方を考える手がかりを提供したい。

■研修会Ｄ（公文書分野　14:35～15:35 ）

「山形県公文書等の管理に関する条例の制定と運用について」

古瀬　隆志氏（山形県総務部高等教育政策・学事文書課）

山形県では、平成31（2019）年3月に「山形県公文書等の管理に関する条例」を制定し、令和2（2020）年4月1日の施行により、現在、条例に基づく公文書管理に取り組んでいます。

本研修では、条例の制定に至るまでの経緯、条例制定時の規定における検討課題とその対応、条例施行後の具体的な運用状況について報告します。

また、本県の公文書センターは、平成27（2015）年度に山形市に近接する寒河江市に開設され、令和2年2月に山形市に設置する遊学館（県立図書館と生涯学習センター等が併設された複合施設）に移転したことから、現在の運用状況や課題についても合わせて報告します。

■研修会Ｅ（地域資料分野　14:35～15:35 ）

「石巻市博物館の板碑拓本アーカイブズの現状と課題 ー板碑の保存と記録化をめぐってー」

泉田　邦彦氏（石巻市博物館）

石巻市博物館は、東日本大震災で被災・解体した石巻文化センターの後継施設であり、一部津波で被災したものの、その収蔵資料を基本的には継承している。震災後の石巻市の文化財行政は、10年の博物館機能空白期間を経たこともあり、所蔵資料の管理や資料調査に対する諸課題が顕在化している。とりわけ市内に2000基以上所在する板碑については、津波で流出あるいは震災瓦礫として処分されたものがあり、その保存が喫緊の課題となっている。

本報告では、合併以前の調査により旧町ごとに採集された板碑拓本約1600基分を所蔵する当館を事例に、二次史料である板碑拓本のアーカイブズ化と一次史料である板碑の現地保存にかかる諸問題を取り上げる。

■全国大会50回記念特別座談会（ 15:45～17:15 ）

「全史料協の50年 ーその原点から現在・未来を考えるー」

登壇者 ： 高埜 利彦氏 ・ 安藤 正人氏 ・ 井口 和起氏 ・ 定兼 学氏
司　会 ： 長谷川 伸氏（大会・研修委員会副委員長）
新井 浩文氏（大会・研修委員／埼玉県立文書館）

全史料協大会は、令和６（2024）年の仙台大会で第50回目の記念大会を迎える。と同時に本年は、全史料協の第１回目の準備会から 50 年目の節目の年にも当たる。

そこで今、岐路にある全史料協の在り方を考えるために、文書館設置運動や資料保存活動の高まりとともに成長してきた全史料協の活動の歴史を、その原点から現在まで振り返り、今後の活動の指針を考える特別座談会を開催する。

ついては、①設立期、②文書館設置と大会の活況期、③転換期（組織改編と災害対応）、④公文書管理法下の新時代をベースに、これまで全史料協の運営に大きく関わった4人の方からお話を伺い、活動の根幹の考え方、及びその魅力や課題を再確認する機会としたい。

■交流会（ 18:30～20:30 ）※開場は18:15

交流会会場

TKPガーデンシティ仙台 21階　　〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1
TEL.022-204-1036

※類似の名称の施設がございますので、お気をつけください。

◎交流会参加費　　**おひとり¥6,600**
※地元酒店より宮城県の地酒の御提供がございます。

◎交流会会場経路案内

①JR 仙台駅西口2階出口 2-4 出入口より右に折れ、仙台パルコ方向へ（※仙台駅を出てすぐ正面に見えるパルコとは異なります。ご注意ください。）向かい、仙台パルコの建物沿いに進む。

⇩

②仙台パルコを右手に、奥の「AER（アエル）」へ向かう。

⇩

③「AER（アエル）」2階出入口より建物内へ入り、通路を奥の出入口まで直進。

⇩

④出入口前を右折して館内へ進み、左手奥の高層階用エレベーターを使用し、会場のある21階へ。

※わかりにくい場合は、TKPガーデンシティ仙台ウェブサイトの「アクセス情報」をご覧ください。
写真を用いた詳細な説明となっています。

１１月２２日（金）

■全史料協特別報告 （ 9:30～10:20 ）

「石川県能登半島地震による被災への対応と救済活動」

辻川　　敦氏（全史料協会長／あまがさきアーカイブズ）
杉山　一雄氏（全史料協調査・研究委員長／岡山県立記録資料館）
宮下　和幸氏（金沢市立玉川図書館近世史料館）

令和6（2024）年1月1日に発生した石川県能登半島地震は、能登地域に大きな被害を及ぼしました。当会会長事務局と災害対応担当の調査・研究委員会は、発災後に実施してきた国や関係機関との対応や現地調査の結果について報告します。また、石川県内唯一の機関会員である金沢市立玉川図書館近世史料館の職員からは、いしかわ史料ネットの会員としての被災地における資料のレスキュー活動や史料館の保存活動について紹介し、被災地石川県の現状について報告します。

これらの報告から、被災地における資料の被害・救済活動の状況を確認し、当会が今後の資料保存に向けてどのようにかかわっていけるのかを一緒に考えていきます。

■大会テーマ

【広がる市町村アーカイブズの多様なカタチ】

■大会テーマ趣旨説明 （ 10:30～10:35 ）

蓮沼　素子氏（全史料協大会・研修委員／大仙市アーカイブズ）

令和6（2024）年の第50回全史料協全国大会は、第29回大会以来21年振りに宮城県仙台市において、仙台市と共催で開催いたします。この間、公文書管理法が公布・施行され、地方自治体においても公文書管理条例の制定やアーカイブズの設置などの動きが活発化しています。東北地方においては、公文

書管理法施行直前の平成23（2011）年3月11日に東日本大震災を経験し、被災資料レスキューや震災記録の管理・公開などを巡る動きがありました。そうした中で、平成29（2017）年の大仙市アーカイブズの開館を皮切りに、第29回大会時には設置が見られなかった基礎自治体による多様な形態のアーカイブズの設立が東北全体で相次いでいます。そして、昨年7月には東北の中心都市として最大の人口規模である仙台市に仙台市公文書館が開館しました。

第45回安曇野大会以降、地方自治体アーカイブズの現状と課題を共有する大会が続いていますが、これまでにも取り上げられてきた単館・複合館といった形態に限らず、公文書のみに特化した施設や MLA機能を一体的に備えた施設など、自治体それぞれの固有の経緯に合わせた機能を持つアーカイブズの整備が全国的に広がっています。本大会では、それぞれの地域に寄り添った基礎自治体立の施設を取り上げ、形態に捉われないアーカイブズの「多様なカタチ」について考える大会としたいと思います。

平成の大合併以降の地方財政の縮小などの影響により、文化施設の維持のための統廃合、新たな文化施設を複数の類縁機関と一体的な施設として設置する動きなど、アーカイブズを取り巻く環境は大きく変化しており、アーカイブズを整備する背景も地域によって大きく異なります。東北では近年、様々な経緯によって「多様なカタチ」の施設が生まれており、今後の自治体においては「多様なカタチ」の施設の共存とアーカイブズ資料の共有の在り方を模索することが必須ではないでしょうか。こうした全国的な大きな流れと東北のアーカイブズ設置の動きから、今年の大会テーマ研究会は「広がる市町村アーカイブズの多様なカタチ」をテーマに4つの機関から御報告いただきます。

基調報告では、「東北におけるアーカイブズ設置の動向と大仙市アーカイブズの取組み」と題して、この21年の東北地方のアーカイブズ活動を概観し、東北初の市町村アーカイブズとして開館した大仙市アーカイブズの事例を報告いたします。大仙市アーカイブズは公文書と古文書等の地域資料の両方を対象とする単館施設であり、公文書と地域資料の二つの視点から大仙市におけるアーカイブズ活動の成果と課題を共有します。大会テーマ研究会全体の骨子となる東北全体の動きと地域のアーカイブズが持つ課題の提示を担う報告です。

報告①「複合施設としてのアーカイブズ―酒田市文化資料館光丘文庫の開館と取組み―」では、今年5月18日に開館したばかりの東北最新施設であり、MLA機能を併せ持った施設である「酒田市文化資料館光丘文庫」について、公文書管理適正化と文化施設の統合問題という二つの視点から、公文書管理条例の制定と館設置の経緯及び運営の課題についてお話しいただきます。
光丘文庫は東北三大地主の一つである「本間家」の蔵書を基盤とする文庫で市図書館のルーツですが、元々あった資料館と新たにアーカイブズ機能を統合することで、MLAの機能を一体的に整備した複合施設として東北での先行事例となっています。

報告②・報告③は仙台市のアーカイブズ活動のこれまでの経緯と、これからのアーカイブズ資料の保存・活用の役割分担について、仙台市の博物館と公文書館の取組みを報告していただきます。
報告②では、「仙台市博物館と市史編さん収集資料」として、仙台市博物館の活動についての御報告です。昭和36（1961）年に開館した仙台市博物館は、市制百周年記念として平成2（1990）年に市史編さん事業を開始し、編さん事業の過程で市の公文書や市内の地域資料の調査・収集を行い、東日本大震災においても地域の資料保全に大きな役割を果たしてきました。また、市史編さん委員会が仙台市公文書館設置の提言を行うなど、これまで仙台市のアーカイブズ活動の中心として長い実績と経験を持っており、こうした活動を振り返り、今後の課題と展望について共有していただきます。

報告③「仙台市公文書館の設置経緯と開館後の取組み」では、令和5（2023）年7月に開館した仙台市公文書館の設置経緯と、開館から1年が経過した館運営の現状と課題についてお話しいただきます。平成 30（2018）年から総務部文書法制課設置準備室において公文書の評価選別を開始し、令和2年度から「（仮称）仙台市公文書館運営検討会議」を設置するなど、開館前からアーカイブズ制度整備に取組み、令和5年3月に公文書管理条例を施行して、公文書管理に特化した仙台市公文書館の取組みがはじまったことで、報告②と併せて仙台市のアーカイブズ活動の全体像が見えてくるのではないでしょうか。

東北全体の現状と課題についての具体的な4つの報告をとおして、公文書と地域史料という基礎自治体における記録の両輪としての歴史資料をどのように保存・活用していくのか、という日本全体の課題との共通点が浮かび上がると思います。本日の報告と議論の中に、これからのアーカイブズが果たし得る多様な可能性を探るヒントが詰まっているのではないでしょうか。

本大会では、前回の第29回大会以降の東北全体が辿ったアーカイブズを取り巻く環境の変化を共有するとともに、昨日の研修会を含めて共有された課題がこれからのアーカイブズの在り方を見出す機会となることを期待しています。

■大会テーマ基調報告 （ 10:35～11:10 ）

「東北におけるアーカイブズ設置の動向と大仙市アーカイブズの取組み」

蓮沼 素子氏（全史料協大会・研修委員／大仙市アーカイブズ）

第29回宮城大会以降の東北におけるアーカイブズ設置の動向を整理したうえで、平成29（2017）年5月に開館した東北初の市町村アーカイブズである大仙市アーカイブズの取組みについて、東北の基礎自治体における先行事例として、公文書と地域資料の2つの視点から開館から現在までの成果と課題について報告します。特に、開館以来の課題であった公文書管理条例の制定を目指して検討しており、また令和4年4月からはじまった電子公文書管理に合わせたシステム構築に向けた検討内容を含めて、現在の公文書管理の実態と今後の課題について具体的に共有します。

■大会テーマ研究会Ⅰ （ 11:10～11:50 ）

「複合施設としてのアーカイブズ ―酒田市文化資料館光丘文庫の開館と取組み―」

川島 崇史氏（酒田市企画部文化政策課）
池田 則雄氏（酒田市総務部総務課）

酒田市では資料館、光丘文庫、公文書館及び埋蔵文化財整理室の機能を集約・一括管理し、過去にあった酒田の出来事や文化を未来に伝えるための総合施設として酒田市文化資料館光丘文庫が令和6（2024）年5月18日に開館しました。

「酒田の先人たちが築いてきた歴史・出来事や文化を継承しながら、市民の郷土愛を育み、新たな地域の文化を創造し、未来へつないでいきます。」を基本理念として、各館で対応していたレファレンスサービスがワンストップ化され、市民の皆さんの利便性が高まることが期待されています。

仙台大会では、酒田市の公文書管理条例制定から複合施設としての開館までの経緯と開館後の取組みと課題について報告いたします。

■大会テーマ研究会Ⅱ （ 13:10～13:50 ）

「仙台市博物館と市史編さん収集資料」

水野 沙織氏（仙台市博物館）

市制百周年事業として始まった仙台市史編さん事業は、平成2（1990）年度から仙台市博物館の所管となり、市史編さん室が設置され、刊行計画の見直しや東日本大震災などに直面しながらも、平成27（2015）年に全32巻の刊行を終えました。これに伴い市史編さん室は廃止されましたが、残務処理を含む調査・収集業務は新設された学芸普及室に引き継がれました。市史編さん室では編さんに必要な資料を収集するだけでなく、仙台市の廃棄公文書の収集や災害時の歴史資料の保全活動も行ってきました。令和5年に仙台市公文書館が設置されたことから、博物館で保管していた市史編さん収集資料の移管を進めています。報告では、編さん室の資料収集の取り組みや経緯、現在抱えている課題についてお話しします。

■大会テーマ研究会Ⅲ （ 13:50～14:30 ）

「仙台市公文書館の設置経緯と開館後の取組み」

多田 夢大氏（全史料協大会・研修委員／仙台市公文書館）
加藤 諭　氏（全史料協大会・研修委員／東北大学史料館）

仙台市公文書館は、条例に基づく公の施設として、また、公文書館法に規定する公文書館として、閉校した小学校校舎を改修し令和5（2023）年7月3日に開館しました。開館に至るまでには、市史編さん委員会から市長あてに出された公文書館設置の提言書、施設設置に先駆けて開始された公文書の評価選別や（仮称）仙台市公文書館運営検討会議の設置等、様々な経緯がありました。

本日の発表では、仙台市公文書館についての紹介をはじめ、公文書館開館までの経緯や（仮称）仙台市公文書館運営検討会議の内容、そして開館から1年を経過した現状を中心に、今後の取組みや課題を含めて説明いたします。

■総合討論 （ 14:50～16:00 ）

登壇者 ： 川島 崇史氏 ・ 池田 則雄氏 ・ 水野 沙織氏 ・ 多田 夢大氏
司　会 ： 蓮沼 素子氏（全史料協大会・研修委員／大仙市アーカイブズ）
　　加藤 諭氏（全史料協大会・研修委員／東北大学史料館）

自治体アーカイブズの取組みに関する各報告と、会場よりいただいた質問・意見をふまえながら、自治体アーカイブズの現状と今後のあり方などについて討論を行います。

■閉会行事 （ 16:00～16:15 ）

参 加 申 込 方 法

1 大会参加について

(1) 参加区分と各参加費

参 加 区 分	大 会 参 加 費	交流会参加費(参加は任意)
会　員(機関・個人ともに)	無 料	6,600円
非 会 員	1,000円	6,600円

※参加される方は、事前に送付します「大会冊子」をプリントアウトするなどして会場にご持参ください。
※今回はオンラインによるライブ中継は行いません。大会終了後、期間限定による配信を行います。

(2) 研修会A(施設見学)について

・研修会Aへの参加・不参加を、申込フォームまたは申込用紙にて必ず選択してください。参加を希望される場合は、コースもお選びください。
・研修会Aは、各施設の都合上、定員が定められており、先着順となります。定員に達しましたら募集停止とし、全史料協ウェブサイトにその旨記載しますので、申込み前に必ずウェブサイトをご確認ください。
・施設見学のオンラインでの実施はございません。

(3) 研修会B・C、研修会D・Eについて

研修会Bと研修会Cは同時刻に別会場で開催されます。研修会Dと研修会Eも同様です。参加を希望される方は、いずれの研修会に参加されるかを申込フォームまたは申込用紙にて必ず選択してください。

(4) 交流会について

交流会への参加は任意です。参加・不参加につきましては、申込フォームまたは申込用紙にて必ず選択してください。

(5) 運営ボランティアについて

大会参加者のうち、大会運営のお手伝いをしていただける方を**5人程度**募集いたします。希望される場合は、申込フォームまたは申込用紙にて必ず選択してください。

2 お申込み先・お問合せ先について

(1) お申込み先・お問合せ先

・全史料協ウェブサイト掲載のオンライン申込フォームを利用してお申込みください。
・オンライン申込みが難しい場合は、別紙「申込書」に御記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール・FAX 又は郵送にてお申込みください。

▶ 全史料協ウェブサイト　https://jsai.jp/taikai/50/index.html

▶申込みフォームリンク（該当するものから申し込みください）

◆機関用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdy3QHSe_16gdLBJ1fpPp51IQj6rvuC3XcY6SHtNWe0jWvXiA/viewform?usp=sf_link

機関用

◆個人用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScmfAafjAfg2klLs_6npGYZrni-9vRazgEHbGwIxcK2snuMPA/viewform?usp=sf_link

個人用

▶ 申込および問い合わせ先：

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山　徳島県立文書館

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 大会・研修委員会事務局

担当 嵐 大二郎（あらし だいじろう）

電話：088-668-3700　FAX：088-668-7199

E-mail：jsai_t@bunmori.tokushima.jp

（2） 参加費・交流会費・弁当代のお支払いについて

・大会参加費（非会員のみ／**¥1,000**）、交流会参加費（参加希望者のみ／**¥6,600**）・弁当代（希望者のみ／**¥1,500**）は、下記の事務局銀行口座へ振込にて**令和6年10月30日（水）までに**お支払い下さい。なお、振込手数料は自己負担となります。

・各領収書は会場受付時にお渡しいたします。

・支払いに関しまして請求書等の特別な書類が必要な場合は、申込時にその旨ご記入ください。記載のないものにつきましては、対応いたしかねますのでご了承ください。

【参加費等振込先】
阿波銀行 八万支店（店番号 123）
全史料協大会研修委員会 委員長 金原祐樹
（ｾﾞﾝｼﾘｮｳｷｮｳﾀｲｶｲｹﾝｼｭｳｲｲﾝｶｲ ｲｲﾝﾁｮｳ ｷﾝﾊﾞﾗﾋﾛｷ）
普通預金口座
口座番号 0615663

3 申込み締切　令和6年10月23日（水）（郵送の場合必着）

4 その他

・今大会は宿泊ホテルの手配を事務局は行いませんので、参加者各自にてご手配ください。

・当日持参いただく「大会資料」は、今回は冊子の形ではなく、データにて参加者にのみメール送付いたします。不参加の方で「大会資料」のみ必要な方は、後日、当会ウェブサイトに掲載いたしますので、ダウンロードしてご活用ください。